

登り終えスキーをはいて再び登り始めた所で両足が強くなり、近くで雷が光り始める。雷大嫌い人間の加藤は、すぐにスキーとザックをはずし、離れたところでツェルトに入ることを提案し、雷雲の通り過ぎるのを40分ほど待つ。

雷も通り過ぎたようなので、再びスキーを着けて大森山頂に向かう。しかしまだ遠くで雷鳴がなり、光が見える。そのため大森山頂でひと休みすることもなく、そのままシールをつけたままで下降することにしたが、まもなく加藤の片方のシールがはずれてしまった。こうなると雷の怖い加藤はもう片方もはずし、一番最初に、しかも今回の最後の滑りのコースを楽しみながら滑り降りてしまった。

大森山の尾根を滑り降りると林道に出て、全員シールをはずし、少ししか滑らない林道をのんびりと下る。まもなく除雪終了点の朝日台。そこから10分ほどで肘折温泉。この林道歩きが出るような雪の少ない年は、このコースは避けた方が無難と思われる。

[タイム] 福島(3:30)⇒天童(5:00)⇒姥沢(7:00)→リフト終点(7:45)→鍛冶小屋(9:10)→立谷沢橋(10:30)→念仏ガ原(11:20)→避難小屋(11:40)→小岳(12:40)→林道(16:45)→肘折温泉(17:30)

飯森山系の沢

芳沢右俣左沢 1994年6月27日

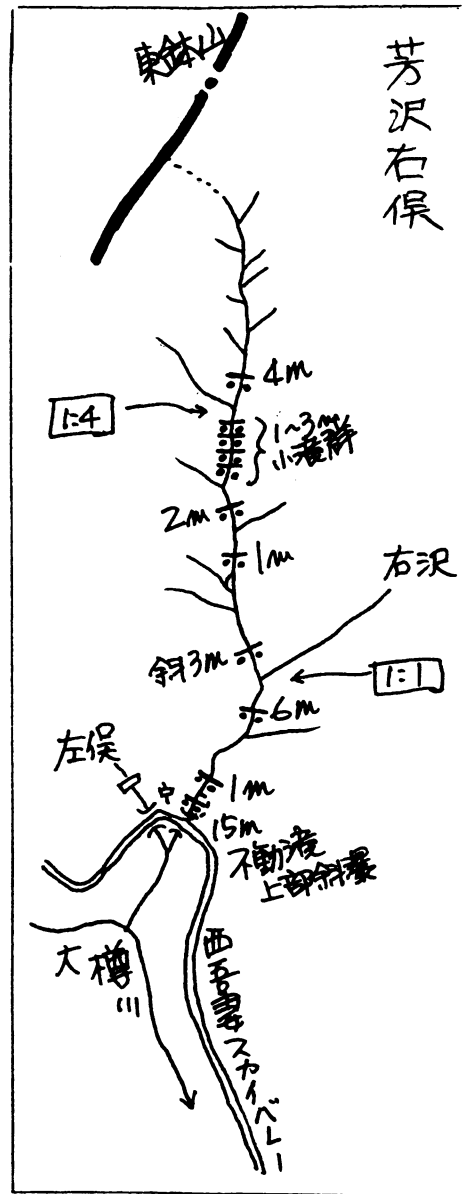
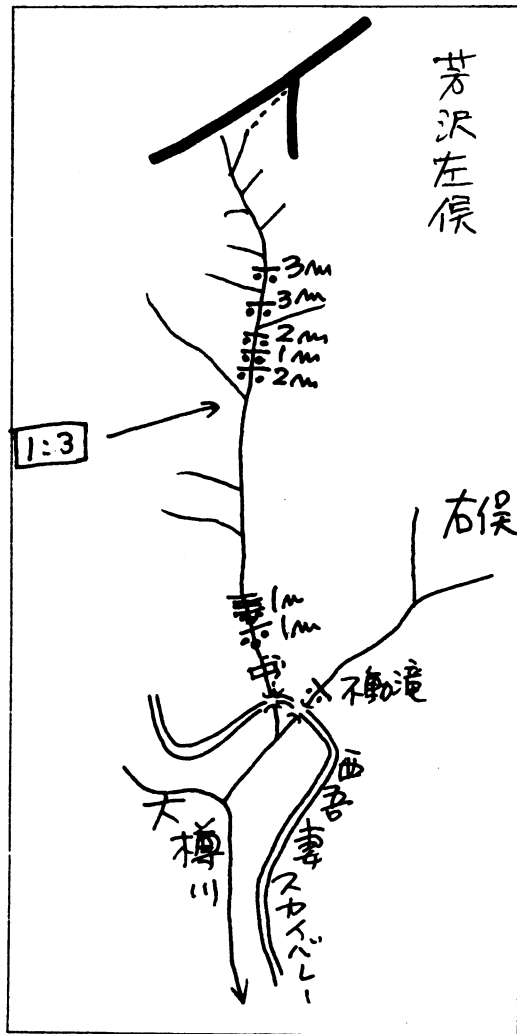
白布温泉から西吾妻スカイバレーをしばらく進むと、芳沢右俣にかかる不動滝を右手に見ることができる。不動尊が祀られ、道路脇には案内板も建てられている。国土地理院発行の2万5千分の1の地図では、沢を取り違えて淀沢と表記されているので注意したい。

沢に降り立つと、すぐに15mの不動滝。直登できそうであるが、濡れていて滑りそうだったので、左岸の草付を小さく捲き、滝の上に出た。不動滝の上部は斜瀑となっていた。10分ほど進むと、次に6mの滝が出てくる。こちらは順層なの

で、簡単に登ることができる。

やがて二俣。ここが右沢との分岐で、私達は左沢に入る。この先沢は短いこともあって、水量はだいぶ少なくなってしまった。それでも適当に滝が出てきて、面白い。1~3mの小滝群を越え、4mの滝を越えると、源頭の様相をみせる。

右に左にと小沢を分けて水量を減らしてゆくと、やがて水も溜れヤブこぎになる。5分ちょっとのヤブこぎで尾根に出る。尾



根を東に向かってヤブこぎして、芳沢左俣の源頭に移動する。

[タイム] 芳沢出合(9:40)→右沢出合(10:10)→沢終了(11:40)→稜線(11:45)